

令和8年度 第1回 高知大学医学部附属病院外部監査委員会議事要旨

日 時 令和8年9月9日（水）15：30～17：05

場 所 特別会議室（医学部管理棟3階）

出席者 吉川委員長、西村委員、坂本委員

欠席者 中西委員

陪席者 北岡病院長、池内医療安全管理部長、上月医療安全管理部副部長、
久米医療安全管理部副部長（GRM）、常光 GRM、榎 GRM、野村 GRM、
浜田医薬品安全管理責任者、門田副薬剤部長、山本臨床工学部副部長（瀬尾医療機器
安全管理責任者の代理）、梅原医学部・病院事務部長、小林医学部・病院事務部次長（兼
医療支援課長）、宮脇総務企画課長、溝口医療支援課医療安全管理室長、西田医療支援
課医療安全管理室特任専門員、正木総務企画課課長補佐

1. 開会

2. 病院長あいさつ

3. 議事

（1）令和7年度インシデントの発生状況等について

医療安全管理部の常光 GRM から、資料に基づき、令和7年度インシデントの発生状況等について、インシデント報告集計及び患者影響度レベル3b以上のインシデント報告の説明が行われ、質疑応答の後、インシデント報告に関する管理・分析、対応等が適正に行われていることを確認した。

なお、委員から、次の意見があった。

- ・薬剤に関するインシデントの報告件数が増えたことについて
 - ・疑義照会に関する報告が増えたことで、全体の報告件数が増えたことはとても良いことである。
 - ・医療安全管理部で各診療科の医師がどれくらい照会を受けているかを調べて診療科にフィードバックし正しい処方をしてもらうよう取組を進めていることは、医師の成長にもなり、また疑義照会が減ることで薬剤師の負担を減らすことにつながる。
 - ・薬剤マスターの作り方を工夫してシステム上でエラーをかけることで、調剤の誤りを防げることがわかってきたとのことなので、ぜひこれを機会にシステムを整えることも進めてもらいたい。
 - ・薬剤師の報告の負担は増えたが、フィードバックされることで良い方向に向かっていることはとても良いことである。
- ・各部署で経験年数1年未満の職員が、教育的な側面も持ってインシデントレポートを書くのは良い取組である。
- ・医師の報告件数が全体の1割以上を達成しているのは素晴らしい。
- ・患者影響度レベル3b以上の事例については予防するのは難しいと思うが、詳しく調べて何か少しでも対応できるものがあれば見つけてもらいたい。
- ・身体行動制限は患者に非常に苦痛を与えるし廃用症候群にも陥りやすい。転倒・転落に対して離床キャッチⅢを増やすことは病院の予算が限られており大変だと思うが進んでいけば良いと思う。
- ・患者・家族とのトラブル時に GRM が対応するのは負担が大きい。人材の面などで大変だと思うが、メディエーターを配置して役割分担することを考えてもらえばと感じた。

（2）令和7年度医療安全管理部の活動について

池内医療安全管理部長から、資料に基づき、令和7年度医療安全管理部の活動について報告があり、質疑応答の後、医療安全管理の強化に向けた様々な取組が適正に行われていることを確認した。

(3) 令和8年度医療安全管理部の目標・活動計画及び進捗状況について

池内医療安全管理部長から、資料に基づき、令和8年度医療安全管理部の目標・活動計画及び進捗状況について報告があり、質疑応答の後、特に改善を要する点はなく、目標達成に向けて取り組んでいることを確認した。

なお、委員から、次の意見があった。

- ・医療安全対策地域連携加算が始まり、1つの公的医療機関と2つの民間病院と組む体制が整った。大学病院は医療安全をこのような形でしっかりやっているの、連携先の病院とタッグを組んで、連携先の病院の医療安全のレベルを上げてもらえれば良いと思う。
- ・医療事故に遭遇した患者・家族、事故を起こしてしまった医療者を外部講師に招いた研修があれば良いと思うので検討してもらいたい。

(4) その他

○医療法施行規則改正（医療安全関係）に伴う外部監査委員会の確認事項について

池内医療安全管理部長から、資料に基づき、医療法施行規則改正（医療安全関係）に伴う外部監査委員会の確認事項について報告が行われた。

4. 閉会